

# ヒマラヤの青い空 とカトマンズ

～姉妹都市・市民交流 25年の歩み～



夕照の世界最高峰エベレストと世界文化遺産バクタプール・トマデトーレ広場

撮影 鈴木 雅則

## 特定非営利活動(NPO)法人 松本ヒマラヤ友好会



事務所・本部 〒390-0852 松本市大字島立 4539 番地 7

TEL: 0263-47-6197 FAX: 0263-47-5685

E-mail : [mhc@lily.ocn.ne.jp](mailto:mhc@lily.ocn.ne.jp) <http://www1.ocn.ne.jp/~mhfc/>



## ごあいさつ

NPO 法人松本ヒマラヤ友好会（MHC）は、1990年4月に任意団体として創立。その前年の11月、松本市は、姉妹都市提携を調印したカトマンズ市と、官民一体となった交流を進めるべく、4月に姉妹提携委員会を組織し、松本ヒマラヤ友好会会長（当時）鈴木雅則は、推薦され、その役員となって、その交流推進の責任を担っていくこととなりました。

2000年3月には、特定非営活動(NPO)法人として認証され、今年度まで25年間にわたり、松本市と姉妹都市カトマンズとの文化・芸術交流や、国際協力事業、及び山岳スポーツの振興を図る活動等を、積極的に実施して参りました。

あらためて、これまでの25年間の両市民をはじめとする大勢の皆様からの、ご理解、ご協力、ご鞭撻に、心から御礼申し上げる次第です。

そしてこの度、MHCが実施した市民レベルの25年の歩みを振り返り、その軌跡を、「**ヒマラヤの青い空とカトマンズ**」～姉妹都市・市民交流25年の歩み～と表題して、小冊子にまとめてみました。小冊子編集に当たり、数多くの事業内容について、簡易で事務的なまとめ方となったことを、お詫び申し上げます。

しかしながら、一つ一つの事業を振り返ると、各事業への苦勞と、様々な思い出がよみがえり、あらためて、ご理解とご協力いただいた、皆様へ、深い感謝の想いが、込み上げてまいります。

この小冊子に記載された各事業が、一つの歴史として、次世代に続く市民交流のなお一層の発展に役立つことを、心から願っております。



平成26年6月10日

特定非営利活動（NPO）法人松本ヒマラヤ友好会  
理事長 鈴木 雅則

## 特定非営利活動法人 松本ヒマラヤ友好会 定款 (抜粋)から

### (名称)

第1条 この法人は、**特定非営利活動法人 松本ヒマラヤ友好会** といひ、英文名は **MATSUMOTO HIMALAYA FRIENDSHIP CLUB** とし、略称を **MHC** とする。

### (事務所)

第2条 この法人は、主たる事務所を長野県松本市大字島立 4539 番地 7 に置く。

住所：〒390-0852 松本市大字島立 4539 番地 7  
TEL: 0263-47-6197 FAX: 0263-47-5685  
E-mail: mhc@lily.ocn.ne.jp <http://www1.ocn.ne.jp/~mhfc/>

2 この法人は、前項のほか、従たる事務所を

**255 Sal Fant Marg, Bafal Ward No: 13, Kathmandu Metropolitan City,**  
(255, サルフアントマールグ, バファルワード NO13, カトマンズ メトロポリタン シティ,  
**Kathmandu, Nepal** に置く。  
カトマンズ, ネパール)

設立：2000年4月（当初、任意団体としての設立1990年4月）  
代表者：理事長 鈴木 雅則  
会員数：89名（松本本部63名 カトマンズ支部26名, 2014年度）  
財政規模：2000年度 640万円    2001年度 1549万円    2002年度 866万円    2003年度 1216万円  
                  2004年度 1352万円    2005年度 1361万円    2006年度 1578万円    2007年度 2170万円  
                  2008年度 1560万円    2009年度 2230万円    2010年度 1622万円    2011年度 1755万円  
                  2012年度 1272万円    2013年度 2172万円                   (税理士法人 成迫会計事務所)

### (目的)

第3条 この法人は、ネパール並びにヒマラヤ地域の人々に対して国際協力及び交流に関する事業を行い、松本市民をはじめとする長野県内外の人々とネパール並びにヒマラヤ地域の人々との友好を深め、相互の理解と発展に寄与することを目的とする。

### (特定非営利活動の種類)

第4条 この法人は、前条の目的を達成するため、次に掲げる種類の特定非営利活動を行う。

- (1) 文化、芸術、スポーツの振興を図る活動
- (2) 国際協力の活動

### (事業)

第5条 この法人は、第3条の目的を達成するため、次の事業を行う。

特定非営利活動に係る事業

- ①ネパール地域の文化、伝統的芸術の紹介、ネパール地域の写真展、ネパール地域の工芸物製品の展示販売の各事業
- ②北アルプス等での親睦登山、ネパール地域においては、ヒマラヤトレッキング等、山岳を通じたスポーツ交流事業
- ③国際協力事業基金の設立によるネパール地域の勤勉学生への奨学基金の運営及び学校建設とその運営、医療奉仕、農業指導等の事業への協力

## 活動に係る事業

### ① ネパール地域の文化・伝統的芸術の紹介、ネパール地域の写真展、ネパール地域の工芸物産展示販売の各事業。

①ヒマラヤ写真の第一人者であり日本を代表する山岳写真家内田良平氏の写真展と、松本市内外からの市民参加によるネパール写真展(1991年10月、1993年9月、1994年10月)を松本駅前のデパート等で開催。松本市長賞、カトマンズ市長賞等をもうけ盛上げました。1991年、1994年の収益金の内、各年20万円、計40万円を松本市提携員会へ寄付。



山岳写真家内田良平氏の写真展と松本市内外からの市民参加によるネパール写真展開催

②1993年カトマンズ市の協力製作による世界文化遺産や古都カトマンズ、そして人々の暮らしぶりを、現地でビデオ収録し、地元TV松本のテレビ番組で紹介。松本の建築専門家の解説も行ってもらおう。

③また1991年～1995年まで市民参加による4回のヒマラヤ・トレッキングを4年連続で地元TV松本のテレビ番組で紹介。ラジオにても解説してネパール・カトマンズの理解を広く求めました。



PL・シン市長(当時)と内田良平さんの協力を得て、古都カトマンズの伝統的な街づくりを映像化し、地元TV松本のテレビ番組で紹介。また1990年～1994年4回のヒマラヤトレッキングを実施し、地元TV松本で紹介。

⑤1994年10月、英語版エベレストトレッキングを元に著者の山岳写真家内田良平さん自身の解説による「内田良平・エベレスト街道を行く」をTV松本にて30分番組で放映。

④1995年9月、松本市へ「内田良平作品15点」を寄贈、時価100万円以上、市民課の内壁に2014年現在も「夕照のエベレスト」の大パネル・サイズ2m×3mが展示されている。



「エベレスト街道を行く」放映 松本市へ「内田良平作品15点」を寄贈 第一回市民参加ネパール写真展

⑥1995年10月に、市姉妹提携委員会主催の第一回市民参加ネパール写真展の開催の運びとなる。鈴木理事長は実行委員長として運営責任者となる。大勢の方々の出品を得て開催となった。優秀作品にはカトマンズ市長賞、松本市長賞、他に表彰。ネパールで活動する民間団体も紹介。

⑦1998年4月～5月、市民参加によるカトマンズの**世界文化遺産**、**釈迦の生誕地**を訪ねる第一回ネパール文化紀行を実施。これは、カトマンズ市役所からブッダの生誕地ルンビニ訪問を願う想いに答えたものであり、前年視察を行い、オリジナル企画として、実施したものである。

第2回は2003年12月～2004年1月、第3回は2006年12月～2007年1月、第4回は2009年1月、第5回目は2012年12月～2013年1月、に**ネパール文化紀行**を実施。



市民参加によるカトマンズの**世界文化遺産**、**釈迦の生誕地**を訪ねる、**ネパール文化紀行**を実施。

⑧1999年6月には、カトマンズ市役所の全面的協力により、**日本初100年前のガラス版ネガによるカトマンズの写真展** 25点、現代カトマンズ写真家の写真展、同時にMHC主催による、**第2回市民参加ネパール写真展**を、駐日ネパール王国特命全権大使夫人が出席して、開催。応募作品には、カトマンズ市長賞、松本市長賞等を授与し話題となりました。



⑨2001年9月には、松本近郊のデパートで、**カトマンズ・ケシャブスタピット市長の紹介によるネパールの一流画家スリージャン・R・バンドリによる絵画展**、同時に**第3回市民参加ネパール写真展**を開催。開催事には、カトマンズ市から行政官・部長ら家族と共に7人来松。友情を深めました。



100年前のガラス版ネガによるカトマンズ写真展は大使夫人を招いて開催。ネ画家による絵画展を松本で開催

⑩2002年6月には、駐日ネパール王国特命全権大使ケダール・バクタ・マテマ氏ご夫妻を招待して、両国の絆が一層深まる事を願い、Mウイング300人ホールで**ネパール・ヒマラヤ映画会**、及び**県内ネパール関係者によるマテマ大使との意見交流会**を開催。また、上高地の山岳関係者とマテマ大使との懇談会をもうけ、山岳交流について話し合いました。



駐日ネパール王国特命全権大使ケダール・バクタ・マテマ氏ご夫妻を招待しネパール・ヒマラヤ映画会、県内ネパール関係者によるマテマ大使との意見交流会、上高地の山岳関係者とマテマ大使との懇談会を開催

- ⑪2002年10月には、**ネパール大使館主催の一般公募第一回ネパール写真展**(東京新宿三省堂文化会館で開催)に、**理事長は運営に携わり、副実行委員長、審査員**として応援。日本全国から160名、作品約600点が寄せられ、**ネパール大使賞等**が選ばれました。橋本元首相を来賓として招待、賛辞を頂く。



橋本元首相も招待されたネパール大使館主催の一般公募第一回ネパール写真展会場

- ⑫2003年5、6月の2回、諏訪市諏訪図書館で、又2003年7月、松本市Mウィングで「カトマンズの街」「エベレストトレッキング」のビデオ映像を鑑賞してもらいながら、各2時間講演。2004年8月、八十二銀行笹賀支店で、ネパール写真展開催。好評を得る。
- ⑬2004年11月、松本駅前の中央公民館Mウィングで、市民参加の「ネパール文化紀行」報告写真展。
- ⑭2005年10月、姉妹提携15周年記念登山アイランドピーク登頂報告写真展、一般公募による「市民参加のカトマンズ写真」他を展示発表しました。



市民タイムス



朝日新聞

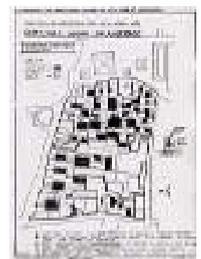


八十二銀行笹賀支店写真展 Mウィングで姉妹提携15周年記念市民参加写真展とアイランドピーク登山報告写真展

- ⑭2005年11月松カ姉妹提携委員会の視察団長として鈴木理事長がカトマンズ市訪問、JICA、日本大使館と情報交換、**カトマンズの武道館の建物と造成地を視察**する。帰国後、菅谷市長へ状況報告。
- ⑮2006年2～3月、中央公民館Mウィングで「2005MHC登山講習報告写真展」「エベレスト展望トレッキングとカトマンズ訪問報告写真展」を開催。写真120点と映像で紹介、大勢の来場者がありました。
- ⑯2006年9月、中央公民館Mウィングで、カトマンズ市役所の協力を得て、「**カトマンズの世界文化遺産と伝統的な街づくり**」と題し、世界文化遺産の維持保全、周辺整備、新しい街づくり、観光との関わりについて、鈴木理事長が報告講演を行う。カトマンズへの深い理解に役立った。
- ⑰2007年1月、NHK松本支局においてMHC写真展を開催。A1、A2パネル写真約30点、他25点。



毎日新聞



カトマンズ市武道館等視察し、菅谷市長へ帰国報告する、講演「カ市協力による世界文化遺産と伝統的街づくり」

⑱松本市市制 100 周年事業として、2007 年 9 月 20～25 日「MHC 登山講習」報告写真展、2008 年 1 月 31～2 月 4 日、「岳都カトマンズ&エベレスト撮影紀行」報告写真展を松本駅前井上デパートで開催。カトマンズ市長賞を表彰するため、カトマンズから 13 名の視察応援団が来松する。他に松本市長賞、松本商工会議所会頭賞、各マスコミ賞をもうけ、広く関心をもたれました。



市制施行 100 周年記念「2007MHC 登山講習」写真展開催、カトマンズ市訪問とエベレスト撮影紀行写真展開催

⑲2009 年 7 月 3 日 **ネパール大使館主催**による在県ネパール人と松本市民のサッカー試合交流会、7 月 3 日ホテルブエナビスタで市会議長及び議員との懇談会、中央公民館Mウィングでの**松本カトマンズ市姉妹提携 20 周年記念祝賀会開催**を松本市と共に支援。MHC の 20 年間の交流・国際協力活動に対し、**駐日ネパール政府特命全権大使ガネッシュ・ヨンザン・タマン大使**より MHC へ**感謝状が授与**される。7 月 4 日上高地、市営アルペンホテルにて、山岳関係者との**ネパール交流の懇談会**を開催。



ネ大使館主催による松本市民と在県ネ人とのサッカー試合      タマン大使と市会議長及び議員との懇談会



M ウィング 6F でネ大使館主催の松カ姉妹提携 20 周年祝賀会を開催。      上高地で山岳関係者との交流懇談会

⑳2010.1 月末～2 月始、MHC 創立 20 周年記念事業、カラパタール 5545m 登頂を目指した**姉妹提携 20 周年記念「岳都カトマンズ&エベレスト撮影紀行Ⅱ」**報告写真展を井上デパート本館で開催。好評を博す。  
21、2011 年 1 月末～2 月始、プーンヒル 3190m 登頂を目指した「岳都カトマンズ訪問とアンナプルナ撮影紀行」報告写真展として井上デパート本館で開催。一般公募も行いカトマンズ市長賞等授与し好評を博す。



姉妹提携 20 周年記念「エベレスト撮影紀行Ⅱ」報告写真展及び「アンナプルナ撮影紀行」報告写真展と授与式

22、2012年1月末～2月始、ゴージャスなピーク登頂を目指した「岳都カトマンズ訪問とエベレスト撮影紀行Ⅲ」報告写真展として、井上デパート本館で開催。一般公募も行い、カトマンズ市長賞等授与し、好評を博す。

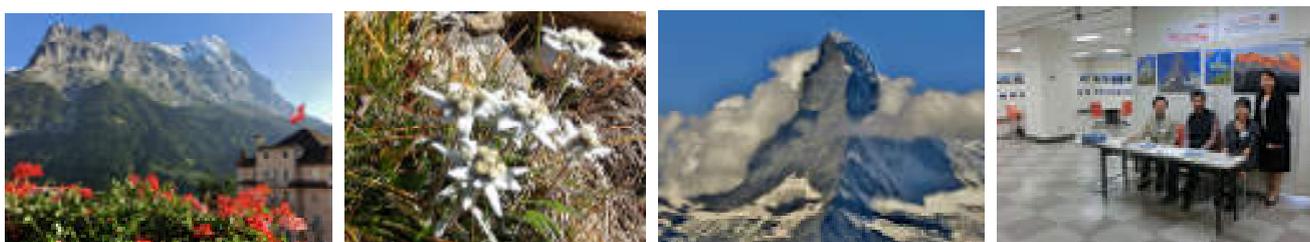
23、2013年1月末～2月始、「第5回ネパール文化紀行」報告写真展として、井上デパート本館で開催。②1,22,23は、一般公募も行い、カトマンズ市長賞、松本市長賞、各マスコミ賞を設け、広く関心がもたれました。



岳都カトマンズ訪問とエベレスト撮影紀行Ⅲ報告写真展

第5回ネパール文化紀行報告写真展開催

24、2013年10月「岳都グリンデルワルト訪問とスイスアルプス展望ハイキング」報告写真展として、井上デパート本館で開催。好評を博す。一般公募も行い松本市長賞等を設け、広く関心がもたれました。



「岳都グリンデルワルト訪問とスイスアルプス展望ハイキング」報告写真展開催

25、2005年～2013年、毎年1回、計9回、安曇野市穂高北小学校、RTA、児童会から、クムジュン校へサッカーボール、バレーネット、鉛筆、帳面等の文具 25kg～30kgを寄贈。MHCが支援、運搬と引渡しを行った。



クムジュン校へサッカーボール、鉛筆、帳面等の文具寄贈

26、「ネパール音楽の夕べ」と題し、2007年9月、2008年8月は松本Mウィング、2012年9月は、松本のあがたの森文化会館講堂ホールで開催。2013年9月上高地アルペンホテルで、ネパールの歌姫スンダリミカコンサートを生演奏によりダンサーの舞踏を披露して開催。



「ネパール音楽の夕べ」ネパールの歌姫スンダリ・ミカ・コンサート開催

27、ネパール・カトマンズとヒマラヤ講演事業は、松本中央公民館、諏訪市図書館、大町山岳博物館、松本市各町会公民館、塩尻市文化会館レザンホール、安曇野市穂高北小学校の講堂・・・等で行っている

28、ネパール地域の工芸物産の紹介と展示販売は、市営上高地食堂、市営上高地アルペンホテルで毎年期間中開催。MHCオリジナル製品をネパール民謡歌手スンダリミカさんのNGO活動により製作してもらい搬送。ネパール貧困女性の経済支援活動にも役立っています。



ネパール工芸物産の紹介と展示販売

**②市民参加による北アルプス等での登山講習、ネパール地域においては、ヒマラヤトレッキング等、山岳を通じたスポーツ交流事業。**

姉妹提携以来、1990年から2014年までの間、市民参加により、北アルプス登山等でMHC登山講習にて体力調整しながら、姉妹都市カトマンズを訪問し、カトマンズ市の協力を得てネパールの文化に触れながら、ヒマラヤトレッキング及びハイキングを計25回実施。

その範囲は、クーンブヒマール、ランタンヒマール、アンナプルナ、ダウラギリヒマール方面に及び、2014年5月まで述べ340余名が参加。現在まで全くの無事故、全員感激の内に終了してきている。



ロールワリンヒマール アンナプルナ・ムクチナート エベレスト・ゴークョ、カラパタール各トレッキング

①1990年12月～,91年1月、ロールワリントレッキング、13名。1991年12月～,92年1月、アンナプルナ・ムクチナートトレッキング、13名。1992年12月～,93年1月、エベレスト・ゴークョピーク登頂トレッキング、13名参加、5名登頂。

②1994年12月～1995年1月には、**姉妹提携5周年記念**エベレストトレッキングに40名が参加。カラパタールピーク5545mに参加者17名が登頂。

上記4回のトレッキングは、地元TV松本で、30分及び1時間番組として、映像を放映する。



アンナプルナ・トレッキング

ランタンヒマール・ヤラピーク登頂トレッキング

③1995年12月～,96年1月アンナプルナ・トレッキングに14名参加

④1997年4～5月ランタンヒマール・ヤラピーク5500m登頂トレッキングに19名参加、13名が登頂する。

⑤1997年12月～,98年1月エベレスト・パノラマトレッキングに17名参加。

⑥1998年12月～1999年1月には、**姉妹提携10周年記念**エベレストゴークョピーク5360mトレッキングに24名参加、24名全員が登頂。



民族衣装サリーを着て、市長へ報告



エベレスト・パノラマ・トレッキング

姉妹提携10周年記念ゴークョピーク・トレッキング

- ⑦2000年4～5月には、**メラピーク・ヒマラヤ登山 6476m**に16名が参加。参加者13名が見事登頂を果たし、カトマンズ・ケシャブスタピット市長から登頂祝賀会を市長公邸で開催して頂き。祝辞を頂きました。
- ⑧2000年12～、01年1月、エベレスト・ファミリートレッキング19名参加、エベレスト街道をタンボチェへ
- ⑨2002年7～8月、2003年6～8月、**クライミングシェルパを講師**に、穂高岳涸沢でザイルワーク登山講習。



2000年メラピーク登山 6476mに13名登頂。カ市から登頂祝賀会に招待。 穂高岳涸沢でザイルワーク講習

- ⑩2004年4～5月には、**姉妹提携 15周年記念アイランドピーク・ヒマラヤ登山 6160m**に8名が参加。フィックスザイル 50m×5本、250mを使用し、斜度 80度の雪壁を登り詰め、参加者4名が見事登頂。
- ⑪2005年12～、06年1月、エベレスト展望トレッキングとカトマンズ訪問9名参加。2～3月初、報告写真展。
- ⑫2007年12月～、08年1月、**松本市市制 100周年事業**として、「岳都カトマンズ&エベレスト撮影紀行」としてゴーキョピーク 5360m登頂トレッキングを実施。20名の登頂を果たし、1月報告写真展を開催し、カトマンズ市長賞を表彰するため、カトマンズから13名の視察応援団が来松する。



姉妹提携 15周年記念アイランドピーク登山 6160m 松本市市制 100周年事業「エベレスト撮影紀行」

- ⑬2009年12月～、10年1月、**MHC 創立 20周年記念事業**として**姉妹提携 20周年記念「岳都カトマンズ&エベレスト撮影紀行Ⅱ」**としてカラパタル 5545m登頂トレッキングを実施。16名の登頂を果す。
- ⑭2010年12月～2011年1月、「岳都カトマンズ訪問とアンナプルナ撮影紀行」として、プーンヒル 3194m登頂トレッキングを、ネパール人2名を加えた15名で実施。14名が登頂を果たした。



姉妹提携 20周年記念エベレスト撮影紀行Ⅱ

アンナプルナ撮影紀行

- ⑮2011年12月～2012年1月、「岳都カトマンズ訪問とエベレスト撮影紀行Ⅲ」としてゴーキョピーク 5360m登頂トレッキングを実施。13名の登頂を果たす。



エベレスト撮影紀行Ⅲトレッキング

⑮2013年8月～9月、「岳都グリンデルワルト訪問とスイスアルプス展望ハイキング」として、30名が参加して、グリンデルワルト村々長らより大歓迎され、姉妹都市交流の責任も果たす。アイガー周辺、マッターホルン周辺を飽きなくハイキングする。



30名が参加した、岳都グリンデルワルト訪問とスイスアルプス展望ハイキング

⑯2014年4月～2014年5月、**姉妹提携25周年記念**「岳都カトマンズ訪問とエベレスト撮影紀行IV」としてネパール人2名を加えた9名で実施。菅谷昭松本市長の親書を持ち、カトマンズ市を表敬訪問。又エベレスト街道を登り、MHCが学生寮2棟、水道600m引き込みしたクムジュン校の学校訪問を行い学生らとの交流をする。カトマンズ帰還後、短期大学へ通うMHC奨学生らを激励し意見交換を行う。



カトマンズ市へ表敬訪問 ナムチェ上部のラリーグラス クムジュンへの登り クムジュン校校舎と校庭



MHC学生寮と校長らと記念撮影 学生と交流会 通学路から望むエベレスト MHC奨学生を激励

⑰2000年～2013年度まで、毎年、NPO法人松本ヒマラヤ友好会の山岳スポーツ振興事業として、ヒマラヤの高所登山経験を生かして、「安全で楽しい登山」を目標に、登山技術と登山に必要な知識を習得する**MHC登山講習**を北アルプス等で行い、創立以来から述べ人数6000名以上の参加者を数える。



上高地2F食堂特設会場 アルペンホテル1Fロビー

⑱2002年～2013年MHC登山講習の**常設写真展開催中**。松本市営上高地食堂特設会場40点、市営上高地アルペンホテル1F、2Fに計30点を4月～11月までの期間中展示。好評を博している。

⑲2014年度も青少年や市民一般登山、山岳写真教室、初心者雪山講習等18登山講習を企画。上高地の常設写真展も、好評にて開催中。

③ 国際協力事業基金の設立によるネパール地域の勤勉学生及び医学生への奨学基金の運営及び学校建設とその運営、医療奉仕、農業指導等の事業への協力

●カトマンズのカレッジ(短期大学)へ通学する**勤勉学生への奨学基金制度**を1996年に設立する。ヒマラヤトレッキング等で誠実に対応するシェルパ族の青少年の教育促進に尽くすため、カトマンズ支部を通じ向学心旺盛なカトマンズのカレッジへ進学する学生へ支援する。これらの運営資金は、MHC 登山講習及び寄付金、講演料、物産展示販売の収益を国際協力事業基金に積立し、監視の元、使用されている。

①カレッジ学生に現在年間12名に、1名月2500ルピーを2年間。2014年5月現在18期生を迎える。(卒業生含現在まで**75名**の奨学生を支援)カトマンズ支部に**奨学基金事務局**を設置。パサングダワ事務局長が1ヵ月毎に学生の様子を確認し、奨学生に奨学金を支給している。



パサングダワ奨学金事務局長

第1期生 3名			第2期生 3名			第3期生 3名	
ベンバヌル	ターラデビ	ティミツェリン	ツェリンオングチョ	ビムシェライ	アンニマ	ミグマツウンズ	ニマヌル
第4期生 3名				第5期生 3名			
アバヤシャライ	ラクマンアドカリ	カンチプチ	ダワヤンジ	カンチフティ	アンナムジャ	タシツェリン	ラクバヌル
第6期生 3名		第7期生 3名			第8期生 4名		
ツェリンユティン	ダワヤンジ	ツェリンダルジ	ベンバヌル	ペマシェルバ	アンヌル	アングダワ	ミグナツェリン
第9期生 3名			第10期生 3名				
ツェリンオム	ソナムフィンジョ	タシツェリン	パサングツェリン	ダワツェリン	アジュンカセット	クングタシ	フドマ
第11期生 5名				第12期生 3名			
カンチプティ	カンチャヌル	チェティンタシ	フラヤンジ	ソナムエシ	ミグマリタ	ダワヤンジ	フラタシ

第13期生 6名



ナワンドルジ



フバソナム



ミグマドルジ



ニマラム



ペンバジャム



チェティンダルジ



ニグマヌル



ニマドマ

第14期生 6名



ペンバジャム



ペマチャムジ



ダシフティ



ツェリンドマ



ツェリンカンチ



ラクパテンツ



ナワンヒンジョ



ツェリントシ

第15期生 6名



フーパテンジン



ソナムドカ



ダワパサン



ダワフティ



ニマドマ



ドマヌル



ペマチュェティン



パサンヌル

第16期生 5名



ツェリンウォンム



ペンバツェリン



ダシフティ



ニमाणチュク



ツェリンカツル



カミツェリン



ラクパカンチ



フラカンチ

第17期生 6名



ドリジチュェティン



パルデンドマ

第18期生 5名



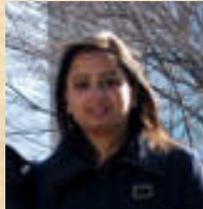
第1期生ターラデビさんと共に



MHC 奨学生と激励食事会と記念撮影



②2005年度から医学生奨学基金を設立し、カトマンズの医学生を対象に、松本市の医療法人から寄せられた支援金により学資を支給、見事医師の資格を取得し、6年目には松本の信州大学へ2009年2月インターンシップ研修させる。他に2007年度から看護学生1名を支援、2年間支援する。



医学奨学生ボナム・キャンディールを招き信州大学医学部でインターンシップ研修をする。看護学生クリバ・スペディさん

●ソルクンプ、エベレスト街道沿いのクムジュン村ヒラリースクール・クムジュン校の遠隔地通学高校生  
 の**新学生寮建設、水道引込み工事**。

③2001年～2002年冬期に資材を用意。建設敷地は、クムジュン村クムジュン校内中央に確保。2002年3月15日着工。新学生寮(60ft×21ft)、台所・食堂(34.5ft×21ft)シャワー室(19.5ft×9.0ft)、総面積約200㎡、水道引込み600mと貯水槽の建設が進められる。7月4日に完成引渡。総工事費は、約510万円であった。

④この費用は、**外務省の草の根無償資金協力**を得ることが出来、2001年10月12日、カトマンズの日本大使館において「クムジュンスクールの新学生寮建設の為のプロジェクト」と題し鈴木雅則理事長がカトマンズの日本大使館と契約を交わし、33,998ドル(当時約440万円)の援助を受けた。



エベレストを望む峠を越えると、神の山クンピーラの麓に広がるクムジュン校



6月末、ヒラリースクール・クムジュン校の遠隔地通学高校生のための新学生寮建設、水道引込み工事完了する



2002年7月4日、鈴木理事長が主賓となり、完成引き渡し式が行われる。学生達がお祝いの踊りを披露

⑤2011年5月26～29日、松本ヒマラヤ友好会鈴木雅則理事長は、ヒラリースクール・クムジュン校開設50周年式典に招待され、現地クムジュン校式典会場に出席。来賓の**文部大臣代理マハシュラム・シヤルマ氏**より、故エドモンドヒラリー氏夫人ジュンヒラリーさんと共に、理事長に**感謝状が授与**される。

⑥創立50周年を記念して新しい食堂を建設。MHCの建物の台所・食堂を、学生寮に改造し、増える学生達の宿泊施設要望に答える事とした。



創立50周年を記念して新しい食堂を建設し、MHCの建物を学生寮に改造。MHC理事長に感謝状が授与される

⑦2014年4月28、29日にクムジュン校を訪問。学生寮には学生24名と舎監として教職員2名が入寮、2014年度も引き続き**電気代、宿舍舎監費用等、一部運営費**を負担していく。但し、今後物価上昇に合わせ、引き上げを検討していくこととする。

外務省広報に完成引渡を掲載

※パサンダワ奨学金事務局長から、昨年の2013年度総会へ、メッセージが寄せられました。

**Dear Suzuki Sang & All Member of MHC**

**Many Greetings from Nepal**

First of all I would like to thank Mr Suzuki Sang & all member of MHC for your kind cooperation & support in the past . **Everest region & Matsumoto has very close relation by geographically and relation between people** . We have very good relation since long time back but specially when I meet Mr Masanori Suzuki in 1996 after that I got chance to work with you more closely being part of member of MHC. I got very positive support from you & I am glad to be a part of MHC member .

**From 1996 to 2013 MHC have supported more than 68 scholarship students providing scholarship to study higher education in Kathmandu. Among the students many of them have achieved good opportunities for their better life .**

**In 2002** in initiation of Suzuki Sang We could get financial support **from Japan Government through MHC to build the new hostel building** .Which support many children's accommodation to study at khumjung school instead of coming from far way walk from Phortse , Pangboche , Thame , Monjo and other dawn valley .

**Because of the hostel facilities many students from that remote village became educated .** Each year there are numbers of children increasing from there.

..略...

At last I would like to thank you all and congratulate for the success of Matsumoto Himalaya Friendship Club .

親愛なる鈴木さんと松本ヒマラヤ友好会の皆様へ

**ネパールからご挨拶**

まず最初に、私は MHC の鈴木さんとすべてのメンバーの方々に、今日までのご協力とご支持について、感謝を申し上げたいと存じます。エベレスト地域と松本は、地理的にも人々との関係で非常に密接な関係を持ちました。私達は、私が MHC のメンバーの一員として、仕事をする機会を得る 1996 年に鈴木雅則氏に出会った昔から、私は貴方から積極的な支持を得、特別に良好な関係を持ちました。そして MHC のメンバーの一員となったことをうれしく思います。

**1996 年から 2013 年** まで、MHC は、カトマンズで短期大学において、高等教育を受ける為の奨学基金により、68 人（2014 年度前半で 73 名）の奨学生を支援してきました。その奨学生の多くは、より良い人生を達成する良い機会を得る事ができました。又、**2002 年**に鈴木さんのお蔭で、私達は**新学生寮(ヒラリースクール・クムジュン校の学生寮)**を建てるため MHC を介し、日本政府からの財政支援を得ることができました。

新学生寮は、エベレスト山麓のポルツェ、パンボチェ、ターメ、モンジョそしてさらに遠くの谷から歩いて来る多くの子供たちの為の宿泊施設として提供し、クムジュン校(1 年生～10 年生)で勉強できるようにしています。学生寮によって、人里離れた村から多くの学生が教育を受けることができました。そして、毎年のように、そこでは子供が増えています。学生寮は毎年、学生で埋まってしまいます。

・・・略・・・

最後に、松本ヒマラヤ友好会の成功のために、貴殿はじめ皆様に感謝し、祝福を送ります。

# KATHMANDU VALLEY

カトマンズ盆地 (部分拡大)

ネパール全国

